

大豆栽培管理情報 (第4号)

平成 27年 7月 29日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 病害虫防除

- ・ウコンノメイガの常発地では、幼虫による葉巻の発生状況を確認し、遅れずに防除しましょう。
- ・紫斑病・カメムシ類等の病害虫を対象とした2回の基本防除を適期に実施しましょう。
- ・隣接地の他作物への農薬飛散に注意してください。

《 大豆防除の目安 》

防 除		随時防除	基本防除	基本防除
散布時期		7月下旬～8月上旬 【葉巻きを発見したら】	8月上～中旬 【莢が伸びきった頃】	8月下旬 【枝豆程度の頃】
対象病害虫 及び 農薬名 及び 散布量	粉剤体系	ウコンノメイガ マメシクイガ	紫斑病・カメムシ類・マメシクイガ	紫斑病・カメムシ類・アブラムシ類 ハスモンヨトウ
		サイアノックス粉剤 4 kg/10a	スミチオンベルコート 粉剤DL 3 kg/10a	マネージトレボン 粉剤DL 4 kg/10a
	液剤体系	ウコンノメイガ	紫斑病・カメムシ類・マメシクイガ等	紫斑病・カメムシ類
		プレバソン フロアブル5 4000倍 150 ℓ/10a	マネージ DF 3000倍 150 ℓ/10a + ダントツフロアブル 2500倍 150 ℓ/10a	アミスタートレボン SE 1000倍 150 ℓ/10a

2 うね間かん水の実施

開花期から9月上旬までは、大豆が最も水分を必要とする時期です。

- ・開花期以降、3日以上晴天日が続いたら、土壌の乾きに応じてうね間かん水を行いましょう。
- ・かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。

うね間かん水の効果 ～収量・品質の向上～

- 着莢数の確保
 - ・落花・落莢の発生防止
 - ・莢先熟の発生防止
- 百粒重の増加
 - ・根の養水分吸収の向上
 - ・光合成の向上
 - ・根粒による窒素固定の向上
- 品質の向上
 - ・ちりめんじわ粒の発生防止
 - ・茶色いしみ状斑紋粒(高温気象に伴う物理的損傷による)の発生防止



写真 うね間かん水の様子

農薬の適正使用や栽培履歴簿の記帳などGAPに取り組みましょう！